（様式１）

県立水戸桜ノ牧高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1） 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

（2） 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

（3） 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

① 生徒一人ひとりが将来の進路を見据え、自主的・自律的に学習に取り組めるようにする。

②「文武両道」の精神のもと、全人的な人間性の向上に努め、豊かな心と将来への夢を育むたくましい生徒の育成に努める。

③国際理解教育、国際交流活動を通して、異文化に対する理解を深め、真の国際人たるに相応しい資質を養う。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

① 課題を見つけ主体的に解決する力
② 他者とコミュニケーションを図る力
③ 仲間と協力・協働しながら互いに高め合う力
④ 異文化に対する理解を深め、真の国際人たるにふさわしい資質

総合的な探究の時間の学習評価

●評価の観点

① 知識・技能　習得した知識・技能を相互に関連付け、課題の解決を図ることができる。

② 思考・判断・表現　情報を集め整理・分析してまとめ、 表現することができる。

③ 人間性　互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。

●評価の方法
① １時間での評価、単元など内容のまとまりを通して評価する。
② 多様な評価方法と評価者による評価を適切に組み合わせる。
③ 探究的な活動での成果物から生徒の探究の過程を見取る。

生徒の実態

① 学ぶ姿勢、態度がしっかりしている。
② 健康で欠席が少ない。
（8 割の生徒が年間欠席 0 日）
③ 部活動を通し、元気な挨拶の習慣が身についている。
④ 協調性も高いが、現代的な課題を抱える生徒

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

① 自己肯定感の低い生徒へは、声かけをしたり褒めたり、その感情を高める。
② 探究へ抵抗感や「何をして良いか分からない」という生徒へは、身近にある課題に着目させるなど、支援を行う。

目指す生徒の姿

① 意欲的に学ぶ生徒
② 健康で豊かな人間性を備えた生徒
③ 積極的に探究しようとする生徒
④ 学校行事に主体的に取り組む生徒

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

● 実社会や実生活において生きて働く資質・能力を育む。

● 社会での課題や解決に取り組んだ経験を、より普遍的で原理的な問題として捉えるとともに、そのより良い解決に主体的・協働的に取り組み続け、新たな価値を実現しようとする姿勢を育む。

●各学年で目標を実現するにふさわしい探究課題を設定し、その探究を行う。

・本校の特色に応じた課題

・生徒の興味・関心に基づく課題

・職業や自己の進路に関する課題（自己の在り方生き方に関する思索を自身の進路に結び付け、自己の生き方について現実的に検討する上で必要となる諸課題）

【１年次】

● 道徳と探究活動の土台作り

・集団生活の中で公共心や公徳心を学びその実践について考える。

・身近な疑問に思うことを自己の課題として探究する。

【２年次】

● リサーチリテラシー

・探究の方法を学び、探究テキストを活用し、自己の探究活動をより洗練されたものにする。

【３年次】

● 実践

・低年次で学習した探究の方法をベースに本格的な探究活動に取り組む。

学習活動、指導方法等

【１年次】

① 「ともに歩む」等道徳のテキストを使用し、集団の中での自己の在り方、生き方を考える。

② 探究活動
自分が疑問に思うことや関心のある事について課題を見い出し、自分の考えた方法で探究を行う。

【２年次】

① 探究のテキストを活用し、探究活動を進める。

② 修学旅行などに関連し、我が国の歴史を正しく理解し、平和を守るために現在まで取り組んできた先人の努力を学び、自己の在り方、平和への取り組みを考える。

② 各自で情報を収集、整理、分析し、自分なりにまとめ、発表する。

【３年次】

① 各自の進路等に対応した探究活動を進める。

② 各自で情報を収集、整理、分析し、自分なりにまとめ発表する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

●学年単位で幅広い活動ができるように「総合的な探究の時間」を設定

●教務、学年での「総合的な探究の時間」の係を中心とした計画的な学習活動

●ＩＣＴを積極的に活用した取り組み

●安全・安心を守る環境整備

・毎月実施のマナーアップ週間　・ネット社会でのスマホの向き合い方を考えさせる

●開かれた学校づくり

・中学校生徒への情報発信　・校外清掃などボランティア活動の充実　・ホームページの充実